

家庭科学習指導案

6年1組 36名 指導者 永田佳子

本授業では、以下の検証を行うものである。

実践発表会を番カフェ方式で行うことは、対話が活発になり、自分や友達の実践のよさに気づき、家庭実践を続けていこうという意欲を高める手立てとして有効であったか。

1 題材 いためてつくろう 朝食のおかず (B 日常の食事と調理の基礎)

2 目標

朝食の大切さやいためる調理の仕方に関心を持ち、簡単なおかずを工夫して作り、家庭でも朝食のおかずをつくってみようという意欲をもつことができるようにする。

3 題材の評価規準

○ 朝食に関心を持ち、朝食に合ういためてつくろおかずを調理し、栄養を考えた朝食のとり方をしようとしている。

【家庭生活への関心・意欲・態度】

○ 朝食に合う簡単なおかずや調理計画、材料や目的に応じたいため方について考えたり、自分なりに工夫したりしている。

【生活を創意工夫する能力】

○ フライパンを安全に扱い、いためて朝食のおかずをつくらることができる。

【生活の技能】

○ 朝食の大切さやいためる調理法の特性と材料や目的に応じたいため方、栄養のバランスのよい朝食の献立の立て方を理解している。

【家庭生活についての知識・理解】

4 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の内容「B日常の食事と調理の基礎」の(1)「食事の役割」、(2)「栄養を考えた食事」と(3)「調理の基礎」との関連を図り、朝食に視点を当て、いためる調理の知識及び技能を身に付け、課題解決を図る構成とした。

子どもたちはこれまでに第5学年「はじめてみようクッキング」や「食べて元気」において、ゆでる調理や米飯及びみそ汁の調理の仕方や調理計画の工夫について学習をしている。ここでは、5年生で培ってきた調理の基礎を生かし、更に調理の技能を高めるだけでなく、日常の食事を見つめ直したり、食生活を振り返ったりしながら、「いためる」調理ができるようにしたい。また、朝食の大切さや朝食のおかずづくりにふさわしい調理の仕方や食材、時間を考えることで、いためる調理のよさに気付かせていきたいと考える。そして、この題材を通して、第5学年で身に付けた「米飯とみそ汁」の調理に「いためる」調理を加えることで、朝食として1食分の調理ができることに気付かせ、進んで家庭実践をしようという意欲を高めていきたいと考える。

この学習は、2学期の題材「くふうしようおいしい食事」、そして、中学校での「B食生活と自立」の学習へつながっていく。

(2) 子どもたちの実態と指導について

本学級の子どもの家庭科学習への関心は高い。学習後の家庭実践報告書や長期休業中の「夏休みチャレンジ」報告書の提出も繰り返すことで、家庭差はあるものの取り組む姿が見られる。しかし、課題(宿題)であるから実践していたり、実践発表会がゴールになってしまったりしている子どもも見られる。つまり、家庭生活をよりよくしようと工夫し、日常的な実践までにつながっていないと言える。また、朝食をとらない日があったり、自分で朝食をつくらたり、フライパンを使って野菜などをいためた経験のない子どもも見られる。

そこで、本題材では、自分の食生活を振り返り、朝食の大切さや朝食づくりにふさわしい調理の仕方や食材、時間を考えることで、いためる調理のよさに気付くことができるようにしたい。また、学習後も継続的に実践しようという意欲をもつことができるようにするため、実践発表会の学習方法を工夫していきたい。

4 指導計画（総時数8時間）

過程	主な学習活動	評価の観点				主な評価規準	時間
		関	創	技	知		
つかむ・見通す	1 朝食の役割や大切さを考える。 朝食の大切さを知り、フライパンを使っていたため調理ができるようになる。 ～チャレンジ「朝食プロジェクト」～	◎			○	◎ 朝食に関心をもっている。 ○ 朝食の大切さを理解している。	1
	家庭で 朝食づくりやいためる調理について調べる。						課外
	2 栄養のバランスを考えた食品の組み合わせや加工食品の扱い方を知る。				○	○ 食品を組み合わせてとる大切さや加工食品のよさや扱い方を理解している。	1
調べる・確かめる	3 フライパンを使って、卵や野菜をいためる調理をする。 試し実習			◎	○	◎ フライパンを安全に扱うことができる。 ○ いためる調理の特性と材料や目的に応じた切り方、いため方について理解している。	2
	4 朝食のおかず「三色野菜の油いため」の調理計画を立てる		○			○ 材料の切り方を考えたり、調理計画を自分なりに工夫したりしている。	1
	家庭で 材料を準備する。						課外
	5 朝食のおかず「三色野菜の油いため」の調理をする。 《一人調理（ペア学習）》 本実習				○	○ フライパンを安全に扱い、いためて朝食のおかずをつくることことができる。	2
生活に生かす	家庭で 計画を立てて、実践をする。						課外
	6 家庭で実践したことを発表する。	◎	○			◎ 家庭で実践しようとする意欲をもっている。 ○ 自分なりに工夫している。	1 (本時)

5 本時（8/8）

(1) 目標

実践発表会を通して、自分や友達の実践のよさに気付き、家庭実践を続けていこうという意欲を高めることができるようにする。

(2) 評価規準

- 家庭で実践を続けていこうという意欲をもっている。 【家庭生活への関心・意欲・態度】
- 朝食に合う簡単なおかずについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。

【生活を創意工夫する能力】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、友達が実践した朝食のおかずの写真を提示することで、友達の実践を聞きたいという意欲を高めるようにする。

「調べる・確かめる」過程では、番カフェ方式を用いることで、主体的に自分の実践を発表したり、聞いたりすることができるようにする。その際、「つなぐ」名人カードを基にすることで、質問を通して理解を深め、対話を広げることができるようにする。また、自分と友達の実践内容を比較し、「見える図」にメモすることで、再構築につながるようにする。

「生活に生かす」過程では、まとめとして、めあて『朝食プロジェクト』の実践発表会を生かして、これからどんな実践を続けていくことができるだろうか。」に対する回答、これから実践していきたいことを書くことで、再構築した考えを明確化することができるようにする。また、振り返りでは、視点として、内容、思考方法、協働的な「学び合い」の3つを提示することで、本時の学習を多面的に振り返ることができるようにする。

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	5	1 2問、復習問題をする。 2 本時の学習のめあてを確認する。 「朝食プロジェクト」の実践発表会を生かして、これからどんな実践を続けていこうか。	○ 授業開始時に家庭科に関する用語の復習（学力向上共通実践事項）をすることで、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるようにする。
調べる・確かめる	30	3 実践内容を発表し合う。 (1) 学習班で発表し合う。 比較する ・ 学校でやった「三色野菜の油いため」に加工食品のベーコンを加えてみました。 ・ ス克蘭ブルエッグにミニトマトときゅうりをそえました。 (2) 学習班の1名は残り、他の3名は、他の班の発表を聞きに行く。 ・ パンと飲み物に合う朝食のおかずをつくりました。 ・ 自分の分だけでなく、家族の分もつくりました。 (3) 学習班に戻り、どんな実践があったか情報交換をし、よい実践を話し合う。 ・ ○○くんは、短時間で家族4人分を作っていたよ。 ・ ○○さんは、おかずだけでなく、5年生で学習したみそ汁もつくっていたよ。 ・ ○○さんは、5年生で作ったランチョンマットを敷いていたよ。	○ 家庭科で初めて行う番カフェ方式の進め方を他教科で行った例を挙げて説明することで、子どもが見通しをもって活動することができるようにする。 ○ 「つなぐ」名人カードを基にすることで、質問を通して理解を深め、対話を広げることができるようにする。 ○ 自分と友達の実践内容を「栄養のバランス」「短時間」「後片付け」などの視点で比較し、ワークシートの「見える図」にメモすることで、学習班に戻った際に、よいと思った実践を挙げて情報交換ができるようにする。 ○ 話し合っ、ホワイトボードにより実践だと思った友達の名前や理由を書くことで、全体で比較したり、分類したりすることができるようにする。 ○ 前題材の「わたしの生活時間」で学習した朝の時間の過ごし方について触れることで、朝食を準備してくれる家族の愛情に気付くことができるようにする。 ※ 家庭で実践を続けていこうという意欲をもち、朝食に合う簡単なおかずについて考えたり、自分なりに工夫したりしているか。(観察・ワークシート) ○ 活動が進んでいる子どもには、称賛し、その理由を書き足すように助言する。 ○ 活動が停滞している子どもには、「自分の実践のどこを直したいか。」などと問い掛け、回答を書くよう促す。
生活に生かす	10	5 本時のまとめをする。 (いつ) に (何) をつくってみようと思います。 工夫や気を付けたいことは、() です。 その理由は、() からです。 6 本時を振り返り、今後の実践への意欲をもつ。 ・ 家族にもっと感謝しよう。 ・ 平日も栄養のバランスを考えて、朝食をしっかり食べよう。 ・ 休日に今度は、家族の分もつくってみよう。 ・ 自分と友達の実践を比較して、次のアイデアが浮かんできたよ ・ 友達から褒められて、自信がついたよ。	○ 振り返る視点として、内容、思考方法、協働的な「学び合い」の3つを提示することで、本時の学習を多面的に振り返ることができるようにする。 ○ 「できる自分」とは、「何でも自分のことを自分ですることではなく、支えてもらっている家族に感謝したり、助け合ったりすることも大切である」という話をするすることで、家族生活を大切にしようとする心情をはぐくむようにする。